

2010年度 エコノメトリックスII&上級エコノメトリックスII  
 第9回宿題(2011年1月7日出題)  
 解答例

2011年1月27日

Q. 7.5

$u_t$  が AR(1) 過程  $u_t = \rho u_{t-1} + \epsilon_t$  に従うという対立仮説の下で、非線形モデル  $y_t = x_t(\beta) + u_t$  は

$$y_t = z_t(\gamma) + \epsilon_t \quad (t = 2, \dots, n)$$

と表すことができる。ここで

$$\begin{aligned} \gamma &= \left( \beta' \quad \rho \right)' \\ z_t(\gamma) &= x_t(\beta) + \rho y_{t-1} - \rho x_{t-1}(\beta) \end{aligned}$$

である。このとき GNR は

$$\begin{aligned} y_t - z_t(\gamma) &= \check{z}_t(\gamma)' \mathbf{c} + \text{error} \\ \text{where } \check{z}_t(\gamma) &= \left( \check{x}_t(\beta)' - \rho \check{x}_{t-1}(\beta)' \quad y_{t-1} - x_{t-1}(\beta) \right)' \\ \check{x}_t(\beta) &= \frac{\partial x_t}{\partial \beta}(\beta) \\ \mathbf{c} &= \left( \mathbf{b}' \quad b_\rho \right)' \end{aligned}$$

この GNR を帰無仮説 ( $\rho = 0$  かつ  $\beta = \tilde{\beta}$ ) で評価すると、

$$y_t - x_t(\tilde{\beta}) = \check{x}_t(\tilde{\beta})' \mathbf{b} + (y_{t-1} - x_{t-1}(\tilde{\beta})) b_\rho + \text{error}$$

となる。 $\tilde{u}_t = y_t - x_t(\tilde{\beta})$  とし、

$$\begin{aligned} \tilde{\mathbf{u}} &= \left( u_2 \quad \cdots \quad u_n \right)' \\ \tilde{\mathbf{u}}_1 &= \left( u_1 \quad \cdots \quad u_{n-1} \right)' \end{aligned}$$

とすると、先の式の行列表現は、

$$\tilde{u} = \check{X}(\tilde{\beta})b + \tilde{u}_1 b_\rho + \text{error}$$

$$\text{where } \check{X}(\tilde{\beta}) = \begin{pmatrix} \check{x}_2(\tilde{\beta})' \\ \vdots \\ \check{x}_n(\tilde{\beta})' \end{pmatrix}$$

となる。

### Q. 7.7

$H_1$  のモデルは書き直すと、

$$y_t - \beta = \rho(y_{t-1} - \beta) + u_t$$

となるから、 $v_t \equiv y_t - \beta$  と定義すると、 $u_t \sim \text{IID}(0, \sigma^2)$  であることから攪乱項  $v_t$  が AR(1) 過程に従うモデルであることがわかる。また、 $H_0$  のモデルは、説明変数が 1 のみの回帰モデル

$$y = 1\beta + u$$

として考えることができる。

ところで、 $H_1$  のモデル GNR は、 $\gamma = (\beta, \rho)'$  とおくと

$$z_t(\gamma) = \beta + \rho(y_{t-1} - \beta)$$

と表されるので、

$$Z_t(\gamma) \equiv \frac{\partial z_t(\gamma)}{\partial \gamma} = \begin{pmatrix} \frac{\partial z_t(\gamma)}{\partial \beta} \\ \frac{\partial z_t(\gamma)}{\partial \rho} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 + \rho \\ y_{t-1} \end{pmatrix}$$

として、

$$u_t = y_t - z_t(\gamma) = Z_t(\gamma)'b + \text{residual}$$

で表すことができる。これを  $H_0$  の下、すなわち

$$\hat{\gamma} = (\hat{\beta}, 0)'$$

で評価する ( $\hat{\beta}$  は  $H_0$  の OLSE であり、 $y_t$  の標本平均に一致する) と、

$$\tilde{u}_t = b_1 + b_\rho \tilde{u}_{t-1} + \text{residual} \quad (Q7.7-1)$$

(ここで、 $\tilde{u}_t \equiv y_t - \hat{\beta}$ ) となるので、 $b_\rho = 0$  の t 検定統計量を用いて検定すればよい。

次に  $H_2$  のモデルについて考えることにしよう。このモデルの GNR はスカラー表現で

$$y_t - \beta - \alpha u_{t-1} = b_1 + b_\alpha u_{t-1} + \text{residual} \quad (Q7.7-2)$$

となる。この式の  $u_{t-1}$  は観測されないが、帰無仮説  $H_0$  の下では、(Q7.7-2) 式の左辺は  $y_t - \beta$  に等しくなる。そこで、 $\beta$  を  $\hat{\beta}$  で置き換え、 $\alpha = 0$  とすれば、帰無仮説  $H_0$ 、対立仮説  $H_2$  とする検定のための GNR は

$$\tilde{u}_t = b_1 + b_\alpha \tilde{u}_{t-1} + \text{residual}$$

となって、(Q7.7-1) 式と一致する。

Note: GNR を使った検定については、テキスト p.244-249 を参照のこと。